

【学校教育目標】

心豊かに 自ら考え行動できる児童の育成

【めざす児童像】 自ら考え行動できる子 仲よく助け合う子 体をきたえ元気な子
～かしこく・やさしく・元気よく～

【本校の現状と課題】

朝から運動場に出て元気よく遊ぶ児童が多くいて、体力づくりのイベントに参加する児童が多い一方で、積極的に参加する児童が固定化されている。運動に対する意識が二極化していると感じられる。授業に対しては意欲的に取り組み、体育の時間を楽しみにしている児童が多いが、自分に合った場でできなかったことができるようになる経験がなく、運動そのものに消極的になっている児童がいる。

①「新体力テストの数値分析の結果」より

○課題だった「握力」と「上体起こし」の数値が改善された。

○男女どちらも反復横とびの数値が県平均を下回っている。

○1年生の新体力テストの総合評価 D+E 割合の数値がマイナス値である。

②「運動に対する意識・運動習慣」についての分析より

○運動が好きな児童と嫌いな児童の二極化が解消されていない。

【取組み】



年間計画の工夫

運動機会を増やすために、授業での運動量を確保する。そのために、体育で使用する環境・場を確保し、十分な運動ができる時間を保障した年間計画を実施している。

また、「わたしたちの体育」を活用し、運動に対する場を子どもたちと共有することで、運動への積極性を高めたい。



陸上・水泳クラブの実施

春と秋の2回、陸上クラブを実施して、自己ベストを更新する喜びを味わえるようにする。また、体力づくりのために参加できるように、多様な運動に触れられる機会を設けるなど練習メニューを工夫する。

水泳クラブでは、25mを泳ぐことを目標にして、水泳が苦手な児童を重点的に指導できるような体制づくりや共通理解を図り、指導していきたい。



体力づくりの工夫

体育委員会主催で、遊具を活用した体力づくり「みなみっ子SASUKE」と「ナワトビチャレンジ」を秋から冬に行う。また、運動が苦手な児童がナワトビチャレンジに参加できるように回数積み上げ式のワークシートを取り入れる。

みなみっ子SASUKEの実施種目を増やすことで運動に対する多様な感覚を身に付けたい。

【目標】

○体育の授業の運動量を増やし、体育が好きで運動に積極的に取り組む児童を育成する。

○ルールや場を工夫し、苦手な種目でも楽しみながら運動に参加する児童を育成する。

○新体力テストの合計記録のさらなるレベルアップを目指す。